

いつくしみ

森野 水琴

とあるビルの一室で彼は生活相談室を開設している。
生活相談といつても、生活資金に困った人ばかりではない。
最近では、居場所を求めて来訪する人もいる。

三十分面談するだけでも満足できる人は、定期的に来訪するようになる。
閉ざしていた心が解けたかのような表情で訪問者は帰っていく。
ある冬の日、口コミによつてか、ひとりの女性が訪ねてきた。

入口にたたずむ女性の表情を暗くさせているのは、寒きのせいだけではなき
そうだ。
幸いなことにほかの予約が入つていないので、女性の話を聞く時間
はたっぷりある。

彼は女性にささやく
ここに来て 暖まるといいでしよう